

内閣官房

健康・医療戦略室調査事業

グローバルヘルスのためのインパクト投資推進イニシアティブ（トリプル I）の運営に係るインパクト投資の調査
実施報告書

令和7年3月

（2025年）

EY 新日本有限責任監査法人

目次

1 章	Triple I と本事業の概要	4
1.1	Triple I の概要	5
1.1.1	Triple I の背景	5
1.1.2	Triple I の目的と活動	5
1.1.3	Triple I の体制	5
1.2	本事業の概要	5
1.2.1	本事業の目的	5
1.2.2	本事業の期間	5
1.2.3	本事業の活動	5
2 章	グローバルヘルス分野におけるインパクト投資の実態や好事例の情報収集・分析・情報発信	7
2.1	Triple I 参加機関によるインパクト投資の実態	8
2.1.1	2023 年時点での投資・プロジェクトの総額および種別	8
2.1.2	投資・プロジェクトの地理的分布	9
2.1.3	グローバルヘルス・トピック	12
2.1.4	裨益者グループ	13
2.1.5	Triple I によるインパクト創出	14
2.1.6	投資・プロジェクトのインパクトメトリクス	15
2.2	グローバルヘルス分野におけるインパクト投資の好事例	16
2.2.1	好事例の候補検討一覧	16
2.2.2	公開情報に基づくパートナー機関の好事例	16
2.3	Triple I Reporting Guidelines and Framework の改定	18
2.3.1	Triple I Reporting Guidelines and Framework の課題	18
2.3.2	Triple I Reporting Guidelines and Framework の改定ポイントおよび積み残し課題に対する 方策	20
2.4	グローバルヘルス分野でのインパクトの測定・マネジメントの実態やインパクト投資の傾向に 係る調査・分析	20
2.4.1	インパクト投資・IMM の傾向に係る調査・分析結果	21
2.4.2	インパクト投資・IMM に関するパートナー機関等の意見収集およびヒアリング結果	21
2.4.3	投資目標に係る検討	24
3 章	グローバルヘルス分野でのインパクトの測定・マネジメントの実態やインパクト投資の傾向に 係る調査・分析および投資目標に係る検討	26
3.1	IMM Working Group の活動・実績	27
3.1.1	IMM Working Group の現状	27
3.2	Practitioner Guide 案の作成・概要	27
3.3	IMM Working Group の提言	28
4 章	まとめ	30
5 章	Appendix	31

図表 目次

図 1 投資・プロジェクトの種別内訳.....	8
図 2 属性別投資金額.....	9
図 3 投資の種別内訳.....	9
図 4 投資・プロジェクトの地域別件数	10
図 5 投資・プロジェクト件数の上位 10 ヶ国	11
図 6 国別投資・プロジェクト件数.....	11
図 7 グローバルヘルス・トピック別の投資・プロジェクト件数	12
図 8 サブ・グローバルヘルス・トピック別の投資・プロジェクト件数	12
図 9 裨益者グループ別の投資・プロジェクト件数	13
図 10 裨益者グループ別の投資・プロジェクト金額①.....	13
図 11 裨益者グループ別の投資・プロジェクト金額②.....	14
図 12 裨益者グループ別の投資・プロジェクト金額の内訳	14
図 13 投資目標の設定案.....	25
表 1 ケーススタディ一覧	17
表 2 Reporting Guidelines and Framework (RF) に関するパートナー機関の意見まとめ	18
表 3 Reporting Guidelines and Framework (RF) の改定ポイント	20
表 4 インパクト投資に係る調査・分析：ヒアリング結果（インパクト投資関連）	21
表 5 インパクト投資に係る調査・分析：ヒアリング結果（IMM 関連）	23
表 6 投資・プロジェクトのインパクトメトリクス	31

1章 Triple I と本事業の概要

【要約】

本章では、本事業の背景・目的および調査方法について記載をしている。

近年、グローバルヘルス分野の財政負担が増大している。特に低中所得国 (LMICs: Low- and Middle-Income Countries) における資金需要は高く、民間資金を動員することが喫緊の課題となっている。このような背景からグローバルヘルス分野でのインパクト投資を促進するためのイニシアティブとして、「グローバルヘルスのためのインパクト投資イニシアティブ (Triple I)」が 2023 年 5 月の G7 広島サミットで G7 首脳に承認され、同年 9 月に開催された国連総会ハイレベル会合の機会に正式に立ち上げられた。

本事業では、Triple I 事務局を務める日本国政府の運営補助業務として、国内外のグローバルヘルス分野におけるインパクト投資の実態や事例の情報収集・分析、Triple I の Reporting Guidelines and Framework の改定、グローバルヘルス分野におけるインパクト投資の好事例に係る情報整理および検討、グローバルヘルス分野でのインパクトの測定・管理の実態やインパクト投資の傾向に係る調査・分析および投資目標に係る検討を実施した。

1.1 Triple I の概要

1.1.1 Triple I の背景

近年、グローバルヘルス分野の財政負担が増大している。特に低中所得国 (LMICs: Low- and Middle-Income Countries) における資金需要は高く、ユニバーサル・ヘルス・カバレッジ (UHC: Universal Health Coverage) や予防・備え・対応 (PPR: Prevention, Preparedness and Response) の強化に向けては、公的資金のみならず、民間資金を動員することが喫緊の課題となっている。

このような背景から、「グローバルヘルスのためのインパクト投資イニシアティブ (Triple I: Impact Investment Initiative for Global Health)」は、グローバルヘルス分野でのインパクト投資を促進するためのイニシアティブとして、2023年5月のG7 広島サミットでG7 首脳に承認され、同年9月に開催された国連総会ハイレベル会合の機会に正式に立ち上げられた。

1.1.2 Triple I の目的と活動

Triple I は UHC 達成を含むグローバルヘルスへの貢献を目的に、以下三つの柱を軸に活動を行っている。

1. 好事例の紹介を通じて、グローバルヘルス分野におけるインパクト投資の認知度を向上させる
2. インパクト投資の測定、検証および開示に関する専門知識の構築と議論の促進を通じて、グローバルヘルス分野におけるインパクト投資の透明性を高める
3. G7 や各国パートナー、多国間組織と連携し、政府や開発金融機関 (DFIs) などがグローバルヘルス分野のインパクト投資を支援できる環境づくりのための政策を推進する

1.1.3 Triple I の体制

Triple I においては、渋澤健氏 (Shibusawa & Company, Inc. の CEO)、スティーブ・デイビス氏 (Bill & Melinda Gates Foundation のシニア・アドバイザー)、アヨーデ・アラキジャ氏 (FIND の理事長) の三名が共同議長を務めている。また、活動の方向性などに助言等を行う組織体として、運営委員会が形成されている他、日々の Triple I の業務を支援する目的で、Triple I 事務局が設置されており、同イニシアティブの立ち上げから2年は、日本国政府が事務局を務めている。

1.2 本事業の概要

1.2.1 本事業の目的

本事業は、国内外のインパクト投資関連の投資家・開発金融機関等が実施しているグローバルヘルス分野のインパクト投資の実態把握および分析 (把握・分析方法の検討および改良も含む) に係る調査を行うことを目的としている。

1.2.2 本事業の期間

本事業は、令和6年5月23日から令和7年3月28日までの期間で実施された。

1.2.3 本事業の活動

本事業では前述の目的に合わせ、以下4つの軸で活動を行った。其々について、後述する。

- ① 国内外におけるグローバルヘルス分野におけるインパクト投資の実態や事例の情報収集・分析
- ② Triple I の Reporting Guidelines and Framework の改定
- ③ グローバルヘルス分野におけるインパクト投資の好事例に係る情報整理および検討
- ④ グローバルヘルス分野でのインパクトの測定・マネジメントの実態やインパクト投資の傾向に係る調査・分析および投資目標に係る検討

1.2.3.1 グローバルヘルス分野におけるインパクト投資の実態や好事例の情報収集・分析・情報発信

グローバルヘルス分野におけるインパクト投資の実態を把握するため、Triple I のパートナー機関に対して、各社が自身の事業で行っているインパクト投資・プロジェクトについての報告を求めた。Triple I の Operational Guidelines に付属する Reporting Guidelines and Framework に則り、各機関の参加当初時点の投資実績（2023 年までの投資実績を 2024 年 11 月まで収集）および 2024 年時点の投資実績（2025 年 2 月から収集）の 2 段階で報告を依頼し、主に、組織概要、投資・プロジェクトの概要・種別、裨益者、インパクト等について情報が収集された。2023 年までのデータは本事業が開始した 2024 年 5 月から 11 月の間で 90 案件（案件有と報告した 15 機関分）、昨年度までに収集されていたものと合わせて 188 案件（同計 37 機関分）、2024 年時点のデータは 2025 年 3 月末時点で計 73 案件（同 13 機関分）の収集が完了した。報告内容から明らかになったグローバルヘルス分野におけるインパクト投資の実態については、第 2 章にて後述する。

Triple I のパートナー機関から集めた情報やパートナー機関の HP 情報等を基に、好事例を選定し、深掘り調査を行った。好事例の一覧について、第 2 章にて後述する。

グローバルヘルス分野におけるインパクト測定・マネジメント（IMM: Impact Measurement & Management）の実態を把握すると同時に、Reporting Guidelines and Framework の改定のために、Triple I のパートナー 11 機関に対してヒアリングを実施した。インタビューを通じて明らかになった IMM や Triple I Reporting Guidelines and Framework の課題、およびその改善に向けた施策案については、第 2 章にて後述する。その他、関係者へのヒアリング調査（海外現地調査）等により、インパクト投資および IMM についての調査分析を行った。

投資目標の設定方法について、机上調査およびヒアリング調査を行った結果を第 2 章にて記述する。

2章 グローバルヘルス分野におけるインパクト投資の実態や好事例の情報収集・分析・情報発信

【要約】

本章では、Triple I 参加機関によるインパクト投資の実態に関する調査結果およびインパクト測定・マネジメント（IMM）の実態に関する調査結果について紹介している。

Triple I のパートナー機関は 2023 年時点で、224 億米ドルを世界のヘルスケアプロジェクトに投資しており、その大部分が直接的な株式投資に集中している。資金の配分は全世界に及び、特にアフリカ地域への投資件数が多く、139 件に達している。投資は全所得者層を対象に行われており、特に低所得者層と貧困・脆弱層も含まれる。具体的には、低所得または貧困・脆弱層を裨益対象に含む投資・プロジェクトへの投資金額が 195 億米ドル（全投資の 87%）に達しているまた、低所得または貧困・脆弱層のみを裨益対象とする投資・プロジェクトへの投資金額も 16 億米ドル（同 7.3%）であり、低所得または貧困・脆弱層への投資が進んでいることが確認された。

パートナー機関は、投資やプロジェクトにおいて、新興国の中でインパクトを及ぼす対象の所得グループを特定し、当該インパクトの指標を導くための戦略を構築している。また、当該戦略の策定にあたっては、SDGs や Impact Management Project などの世界的な枠組みが利用されていることがアンケート調査により明らかとなった。パートナー機関の一部は既に自社独自の IMM 手法を確立しており、Triple I が提供する Triple I Reporting Guidelines and Framework を使用することで、より効率的にインパクト投資の結果を把握することが可能となる。

しかしながら、IMM 手法についての共通理解が確立されていないため、取り組みを進める上での課題も明らかとなった。IMM の実践において必要な人材を確保すること、それぞれの投資やプロジェクトが創出するインパクトを適切に測定・マネジメントすること、外部資金提供者に対して独自の取り組みを最適に発信するための戦略を策定することなどが、主要な課題として特定されている。これらの課題を解決するためには、Triple I、パートナー機関、そしてその他のステークホルダーとの緊密な協力・連携が求められるところである。

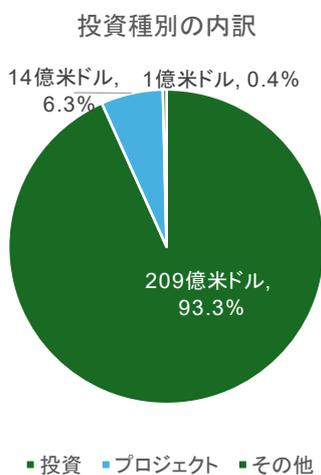
2.1 Triple I 参加機関によるインパクト投資の実態

本節では、Triple I のパートナー機関によるインパクト投資の現状について、2023 年時点の投資実績を中心に分析を行う。2024 年時点の実績については、現在、パートナー機関からデータを収集中であるため、分析を実施することが出来なかったが、今後、データが収集できた段階で分析が実施される予定である。

2.1.1 2023 年時点での投資・プロジェクトの総額および種別

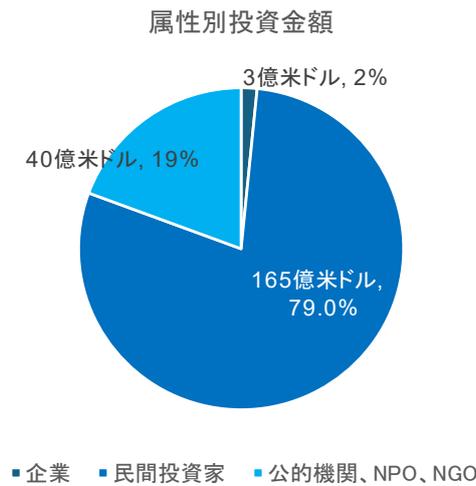
Triple I のパートナー機関は、2023 年時点の実績として、グローバルヘルス分野において 224 億米ドル投資しており、188 件の投資・プロジェクトを実施している。この金額のうち、投資は約 93% (209 億米ドル) を占め、プロジェクトは約 6% (14 億米ドル)、その他 (キャパシティ・ビルディング等) は 0.4% (1 億米ドル) である。

図 1 投資・プロジェクトの種別内訳



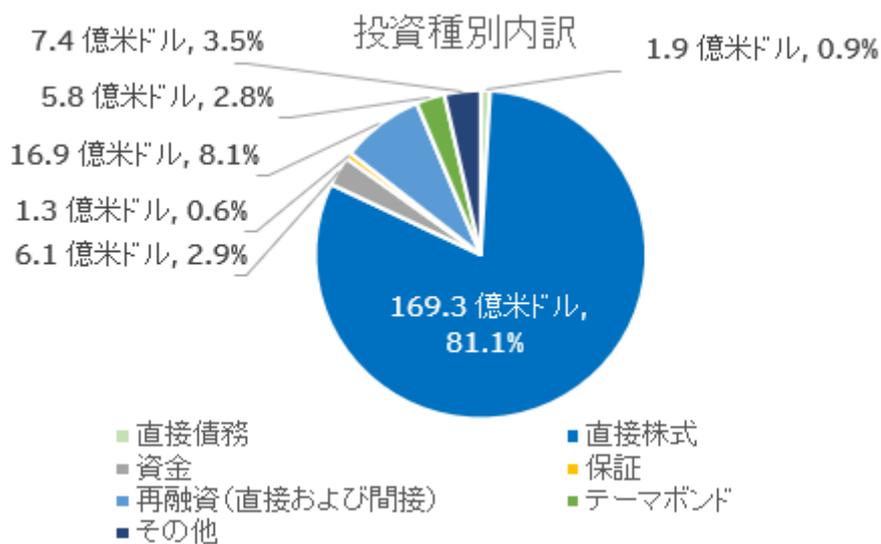
投資家と企業の両方を含む民間部門の投資・プロジェクトは、投資金額の約 80% を占め、公的資本は約 20% であることが確認された。

図 2 属性別投資金額



また、投資の内訳では、株式への直接投資が大半を占めており全体の約 81%（169 億米ドル）である。

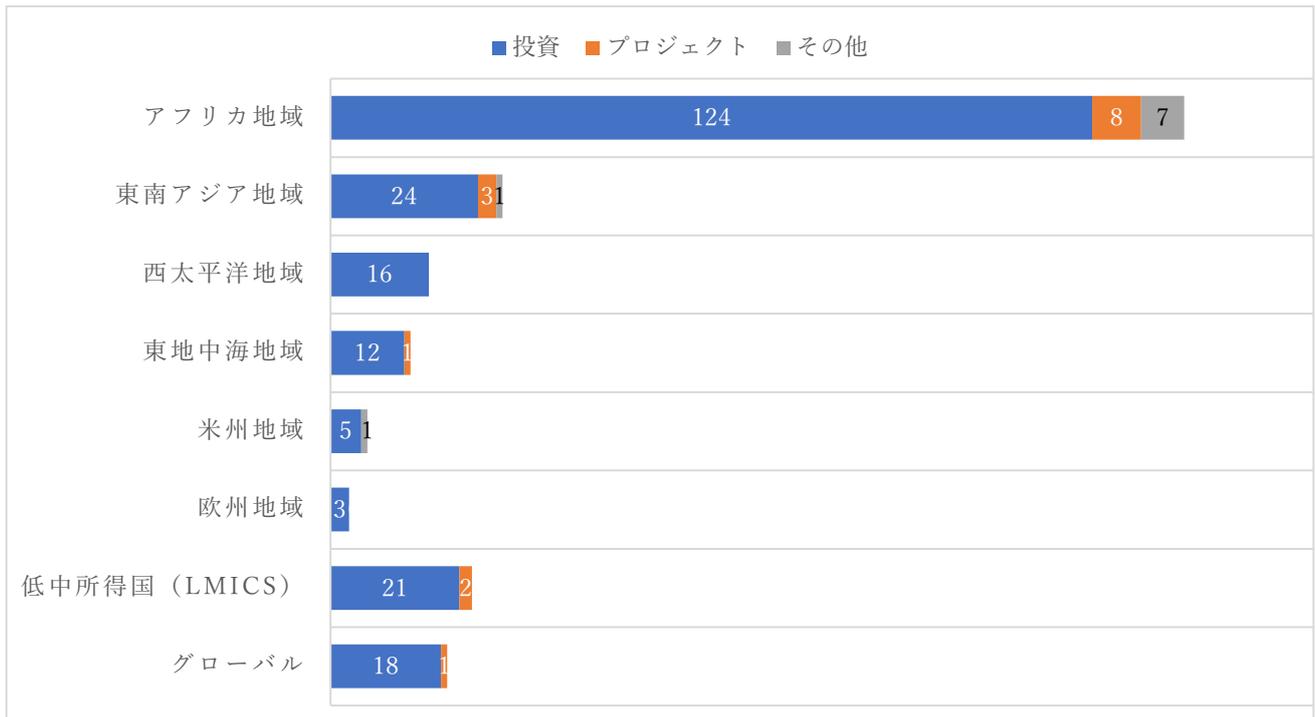
図 3 投資の種別内訳



2.1.2 投資・プロジェクトの地理的分布

投資・プロジェクトの件数を WHO 加盟諸国の地域分類に則って集計（同一地域内の複数国を対象とする案件については、該当地域に重複して集計）したところ、アフリカ地域を対象に含む案件が合計 139 件と突出して多く、次いで東南アジア地域を対象に含む案件が 28 件となっている。そのほか低中所得国（LMICs）や先進国も含むグローバルなど複数の地域への投資も確認され、それぞれ 23 件、19 件となっている。

図 4 投資・プロジェクトの地域別件数



国別の投資・プロジェクト件数においては、インド（18件）、ケニア（18件）、ナイジェリア（13件）など、特定の国への投資が集中している傾向がある。

図 5 投資・プロジェクト件数の上位 10 ヶ国

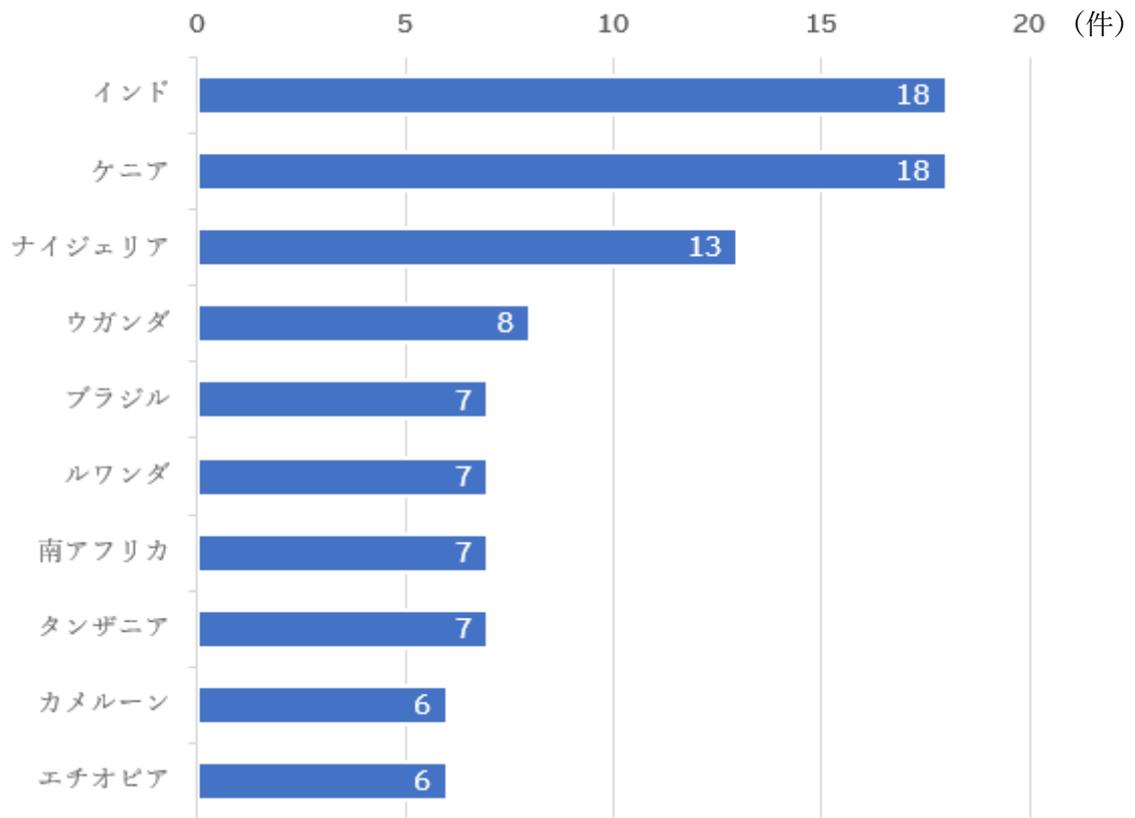
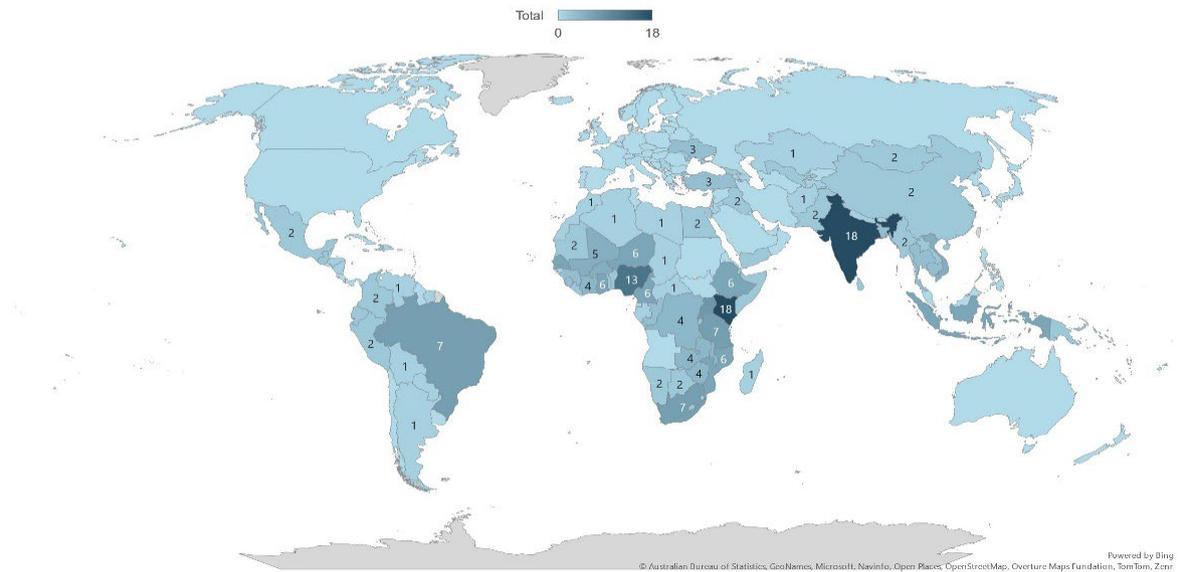


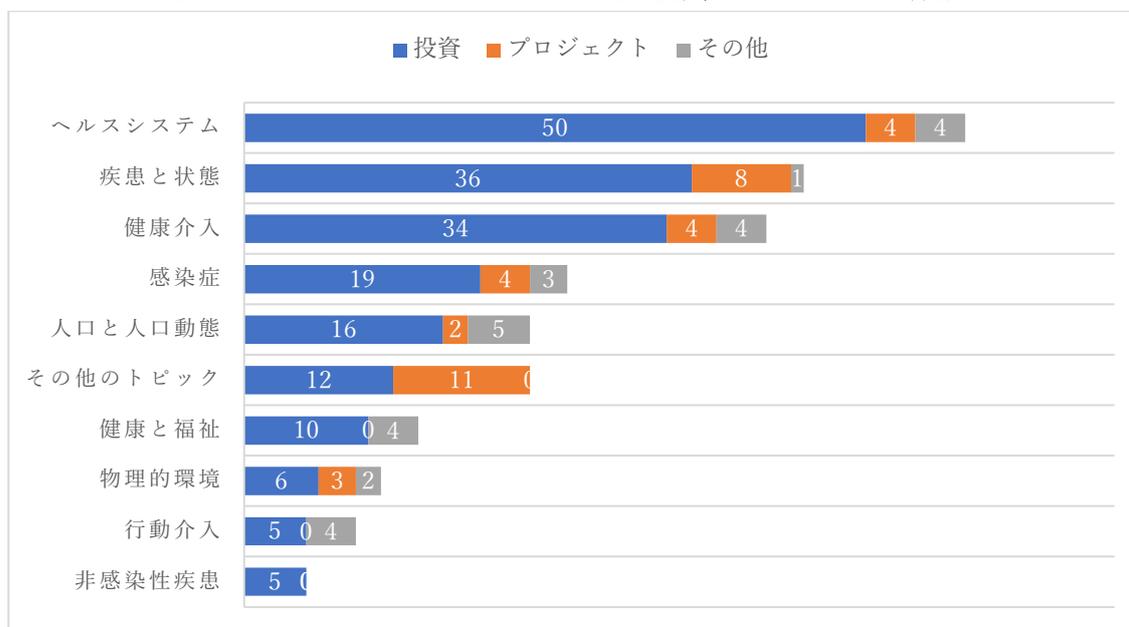
図 6 国別投資・プロジェクト件数



2.1.3 グローバルヘルス・トピック

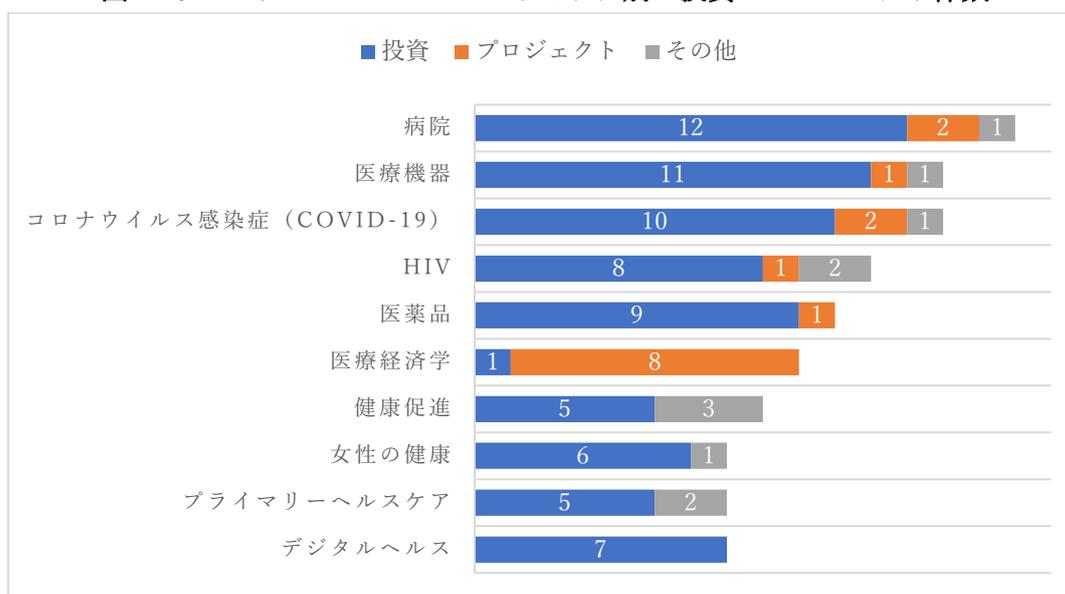
WHO の分類を基に集計したところ、Triple I 全体では、投資は主に「ヘルスシステム」、「疾患と状態」、「健康介入」の3つのトピックに集中している傾向にあることが確認された。これは、構造的格差とコロナウイルス危機の両方に取り組んでいることが背景にあると考えられる。

図 7 グローバルヘルス・トピック別の投資・プロジェクト件数



さらに詳細なサブトピック別では、病院、医療機器、コロナウイルス感染症（COVID-19）、HIV、医薬品、医療経済学への投資件数が多いことが確認された。その他、女性の健康、デジタルヘルスなども上位10位に位置している。

図 8 サブ・グローバルヘルス・トピック別の投資・プロジェクト件数



2.1.4 裨益者グループ

全投資・プロジェクトのうち、127件（全体の69.0%）が、低所得または貧困・脆弱層を裨益対象に含んでいる。

金額で見ると、低所得または貧困・脆弱層を裨益対象に含む投資・プロジェクトの割合はさらに高く、195億米ドル（全体の87.1%）である。さらに、16億米ドル（7.3%）の投資・プロジェクトが、低所得または貧困・脆弱層のみを対象としている。

図 9 裨益者グループ別の投資・プロジェクト件数

低所得または貧困・脆弱層を裨益対象に含む
投資・プロジェクトへの投資件数

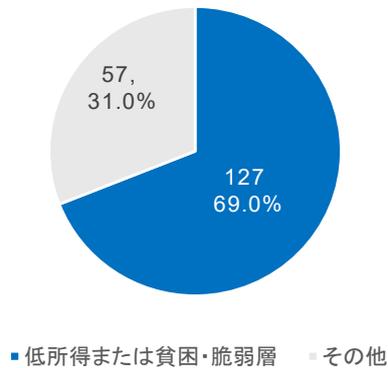
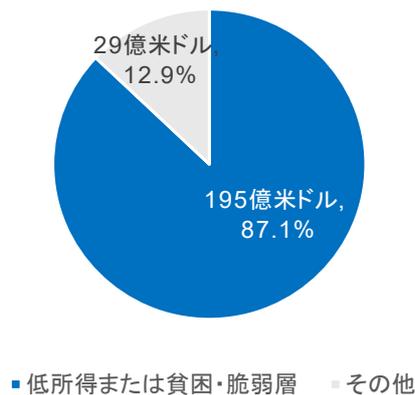


図 10 裨益者グループ別の投資・プロジェクト金額①

低所得または貧困・脆弱層を裨益対象に含む
投資・プロジェクトへの投資金額



低所得または貧困・脆弱層のみを裨益対象
とする投資・プロジェクトへの投資金額

図 11 裨益者グループ別の投資・プロジェクト金額②

低所得または貧困・脆弱層をのみを裨益対象とする投資／プロジェクトへの投資金額

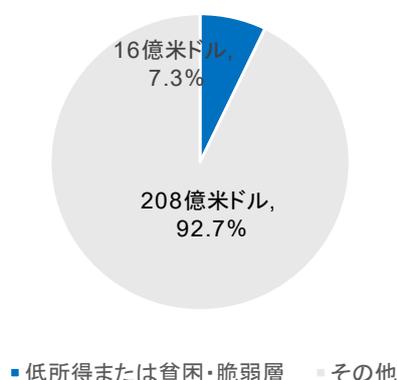
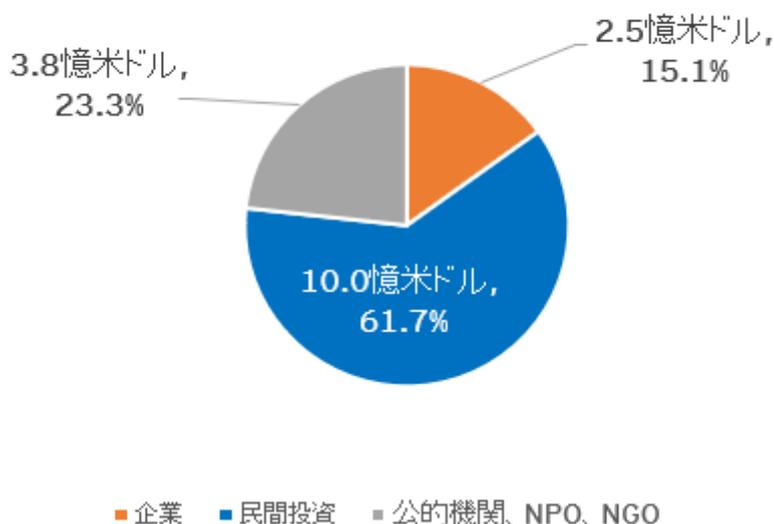


図 12 裨益者グループ別の投資・プロジェクト金額の内訳

低所得または貧困・脆弱層をのみを裨益対象とする投資金額の内訳



2.1.5 Triple I によるインパクト創出

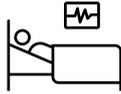
Triple I のパートナー機関によるインパクト創出は、以下の通りであることが確認された。今回のインパクトのデータ収集においては、パートナー機関が達成したインパクトとして文章で記載されている回答を基にキーワードでデータを抽出して、インパクトを受けた裨益者毎の合計人数を計算した。なお、案件終了後も創出が続くと考えられるインパクトについて、パートナー機関がいつまでデータを収集し続けられるかが今後の課題となる。



300万人の人命が救われた



1,100万人がきれいな水を利用できるようになった



1億6,000万人が感染症の治療を受けられた



2億3,000万人が予防接種を受けられた



80万人の医療スタッフが訓練を受けた

2.1.6 投資・プロジェクトのインパクトメトリクス

投資・プロジェクトのインパクトに関して、「想定されるインパクト」と「実際に達成されたインパクト」についてパートナー機関から回答を得た。「想定されるインパクト」は主に、パートナー機関が投資・プロジェクトのインパクト測定に使用した（または使用する意図がある）指標を含む。パートナー機関の回答を分析し、アウトプット、アウトカムおよびインパクトの3つに分類した。分析によると、2024年に実施された Triple I パートナープロジェクトの約75%は、少なくとも1種類のインパクト関連のパフォーマンス指標を導入している。

アウトプットとアウトカムの指標は、投資の具体的な効果を示すとともに、投資ライフサイクル全体における意思決定に必要な情報を提供する。アウトプット指標は投資実績と医療へのアクセスについて分かりやすいイメージを描いている。調査対象の投資・プロジェクトにおいては、患者へのリーチ（検査実施数等）、施設拡充（ベッド数増加等）、人材育成（医療従事者研修等）などの指標カテゴリーが見られた。全188件のうち、73%（138件）の投資・プロジェクトが主要活動の直接的な成果測定にアウトプット指標を活用している。

一方、アウトカム指標は、アウトプットが医療システムにもたらす長期的な効果を反映するものである。調査対象の投資・プロジェクトでは、疾病管理効果（治療遵守率等）、運営持続可能性（患者一人当たりコスト等）、ジェンダー平等（女性向け医療サービス拡大等）などの指標カテゴリーが確認された。全体の48%（91件）が構造的変化の測定にアウトカム指標を適用している。

インパクト指標は、投資・プロジェクトの取り組みが対象ステークホルダーの健康・福祉の実質的改善に結びついているかを示す重要な証拠となる。しかし、健康への影響は体系的かつ緩やかに変化するため、投資家による測定・モニタリングには実務上の制約がある。全体の23%（43件）が長期的な効果をインパクト指標で評価している。調査対象の投資・プロジェクトでは、健康インパクト測定（回避

された DALYs（障害調整生命年）等）、医療システム変革（自己負担費用削減等）、経済的インパクト（健康改善による生産性向上等）などの指標カテゴリーが用いられている。各カテゴリーの具体的な指標例については、Appendix の表 5 に詳細を示している。

多くの取り組みが現在進行中であることから、投資・プロジェクトの成熟に伴いアウトカム・インパクト指標の採用率は今後上昇すると予測される。長期的指標は、グローバルヘルス投資の成功を特徴づける持続的な改善について本質的な洞察を提供するため、こうした測定手法の進展は重要な意味を持つ。2024 年の詳細分析については、より多くのデータ収集を待って行われる予定である。

2.2 グローバルヘルス分野におけるインパクト投資の好事例

2.2.1 好事例の候補検討一覧

本事業では、20 機関を超える TripleI パートナーから 30 件以上のプロジェクトを好事例候補として検討した。パートナー機関からの Reporting Guidelines and Framework に基づく情報提供および各機関のウェブサイト掲載情報を基に初期調査を実施し、候補を絞り込んだ。なお、TripleI パートナー機関はいずれもグローバルヘルスへのインパクトと健康課題への取り組みに強いコミットメントを有しているため、各プロジェクトが持つ革新的なアプローチの特性の有無が主な選考要因となった。

選考後、本事業では当該プロジェクトを実施したパートナー機関に対し、ケーススタディ専用の情報収集テンプレートを送付し、詳細情報の提供を依頼した。同テンプレートは以下の 4 セクションで構成されている。

- ・ セクション 1：スキーム概要
- ・ セクション 2：投資スキームのステークホルダー詳細
- ・ セクション 3：TripleI ケーススタディガイドラインとの整合性
- ・ セクション 4：IMM アプローチ（目標・期待、使用指標、達成インパクト、財務パフォーマンス、システムレベルの変化等）

ケーススタディの草稿作成およびパートナー機関との協議を経て、各機関の知見をより包括的に把握するため、下記のセクション 5 を情報収集テンプレートに追加した。

- ・ セクション 5：振り返りと将来展望

最終的に 14 のパートナー機関とケーススタディ作成の可能性について協議したが、うち 3 機関についてはテンプレートへの情報の記入が困難なため見送られた。その主な理由としては、内部リソースの時間的制約、人材不足、対象分野におけるインパクト測定システムの成熟度不足等が挙げられた。

2.2.2 公開情報に基づくパートナー機関の好事例

本事業では、パートナー機関のインパクト投資・IMM の好事例について調査を行い、合計 9 件のケーススタディの作成に携わり、完成したケーススタディは TripleI のウェブサイト上で公開され、または公開される予定となっている。これらのケーススタディは、アフリカ、アジア、南米の低中所得国 (LMICs) における多様なプロジェクトおよびスキームを網羅している。

ケーススタディの一覧は、以下の通りである。

表 1 ケーススタディ一覧

パートナー機関	ケース概要	掲載日
HFC	HFC、ドナーおよび技術パートナーによって創設された「オープン・ドアーズ・アフリカン・プライベート・ヘルスケア・イニシアティブ (ODAPHI)」は、この種のものとしては初めてのローン保証の枠組み。 COVID-19 パンデミックおよびパンデミック直後の時期に、アフリカの 5 カ国にある最前線の医療施設に運転資金の融資に係るローン保証を提供。	2025 年 1 月 22 日
Verge	Verge が投資した reach52 はデジタルプラットフォームを構築し、地方の医療従事者や小規模薬局を繋げることで、アジアとアフリカの農村部における医療サービスへのアクセスを向上。	2025 年 4 月頃を 予定
m2m	各コミュニティの HIV 感染者の女性を「Mentor Mother」と呼ばれるコミュニティ・ヘルスワーカーとして雇用、研修を行い、保健施設や戸別訪問、e-サービス等による遠隔サービスを通じて、各コミュニティの人々に基礎的な保健サービス、教育、支援を提供。	2025 年 4 月頃 を予定
KOIS	Development Impact Bond を発行し、エチオピアの menstrual hygiene and health (MHH)に関わる問題へのアプローチを支援。支援内容は、月経衛生管理に対する意識向上、衛生インフラの建設・維持、衛生製品の生産・流通の 3 つの要素が含まれる。	-
GHIC	GHIC は 1 億 800 万ドルのグローバルヘルスに対するインパクトファンドを運営。同ファンドを通じ、低中所得国で深刻な課題となっている HIV/AIDS、マラリア、結核、コレラ等の感染症を対象とした臨床診断、医療機器、ワクチン、治療薬を開発する 12 社への投資を行っている。 同ファンドのポートフォリオ企業は、多くの製品の商品化に成功し、これらの製品は 1 億人以上の人々に提供されている。	-
Quadria	Quadria は、主にアジアをターゲットにしたヘルスケア分野のプライベートエクイティファンドを運営。 投資先の Nephroplus は、アジア全域の大規模で高成長な市場において独自のポジションを確立した透析サービスの提供者である。都市部および農村部の双方において官民パートナーシップを通じたケア提供も行っている。病院が透析オペレーションのアウトソーシングを進め、政府が高品質な透析サービスへのアクセス向上を目指す中、Nephroplus のような専門チェーンの市場シェア拡大が見込まれている。	2025 年 4 月頃 を予定
AXA IM	AXA Investment Managers は、18 カ国で運用資産総額 8,440 億ユーロを有する責任投資運用会社であり、そのうち 4,800 億ユーロが ESG 統合型、サステナブル型またはインパクト型に資産が分類される。 Alydia Health：世界の妊産婦死亡の主要因である産後出血 (PPH) に対応する医療機器である。年間 1,400 万件の症例と 7 万件の死亡が報告され、主に LMICs で発生。	2025 年 4 月頃 を予定

TEAM FUND	TEAM FUND は、十分なサービスを受けていない人々や LMICs のための、医療のアクセス性、手頃な価格、品質や持続可能な性を向上させるイノベーションへ投資するインパクト投資ファンド。 Forus Health: 眼科診断とケア管理のための独自のハードウェアと AI ベースの SaaS ワークフローを提供するインド発の医療技術会社。パブリック・プライベート・パートナーシップを通じて患者がアクセスしやすい診断・検査やデジタルプラットフォームを提供。	2025 年 4 月頃を予定
MedAccess	MedAccess は 2021 年に SD Biosensor にボリュームギャランティーを提供し、HIV と梅毒の二重迅速診断検査を 1 検査あたり 1 ドル未満で利用可能にした。これにより各国は調達と検査を拡大することが可能となり、特に梅毒と診断された場合に治療を受けることができる妊婦に恩恵をもたらした。	2025 年 4 月頃を予定

2.3 Triple I Reporting Guidelines and Framework の改定

2.3.1 Triple I Reporting Guidelines and Framework の課題

本事業のパートナー機関へのヒアリングにより、Triple I の Reporting Guidelines and Framework (RF) の課題としては、パートナー区分、裨益者の測定、データ収集と管理、二重計上（ダブルカウント）、ヘルスケアトピック、インパクト投資の定義、所得階層、投資エリアがあり、これらの設問の設計に改善余地があることが確認された。

表 2 Reporting Guidelines and Framework (RF) に関するパートナー機関の意見まとめ

#	項目	前回フェーズ (2024 年 1-3 月)	今回フェーズ (2024 年 8 月以降)
1	投資種別	<ul style="list-style-type: none"> “Investment/ Project Type”の定義を明確にする必要がある プロジェクト名を記載する欄が欲しい 上場企業の株式に投資する際、プロジェクトの詳細情報は限定的である 	N/A
2	パートナー区分	N/A	<ul style="list-style-type: none"> 様々な機関が投資先に投資しており、RF 内の投資家区分の選択肢からの選択が困難である場合があるため、区分の細分化が必要
3	裨益者の測定	<ul style="list-style-type: none"> Expected Impacts、Impacts Achieved、Additional Information の 3 つの質問が似通っており、デューデリジェンス中、投資後、エグジット時等の時間軸を追加してほしい 株式やテーマ別債券への投資時には入手が困難である Impacts Achieved の測定が難しい 	<ul style="list-style-type: none"> 関係者が多くなると投資フローとインパクトの収集・追跡が複雑 裨益者を特定することによる分析のメリットや関連性が分からないと投資先への依頼も困難

4	データ収集と管理	N/A	<ul style="list-style-type: none"> • 現行の Excel ベースのデータ収集ではなく、Web ベースのプラットフォームを活用することを提案
5	二重計上 (ダブルカウント)	N/A	<ul style="list-style-type: none"> • 同じ案件のインベストメントチェーン上に Triple I パートナーが複数いる場合、アセットオーナーとその他の投資がダブルカウントされる可能性がある
6	ヘルスケアトピック	<ul style="list-style-type: none"> • ヘルスケアカテゴリーをより広範にし、包括的にする必要がある • 選択プロセスを簡素化し、カテゴリーの柔軟性を高める必要がある 	<ul style="list-style-type: none"> • フレームワークを拡張して、医療バリューチェーンの全範囲に対応する特定のカテゴリーを含める必要がある (例:ヘルスケア IT、コンサルティング、研究開発、規制研究) • 分類の選択肢が限定的で、インパクトを適切に報告できない可能性がある (例: 子宮頸がん、癌、慢性呼吸器疾患等は含まれている一方、他の重要な NCD (代謝疾患や心血管疾患等) が網羅されていない)
7	インパクト投資の定義	<ul style="list-style-type: none"> • インパクト投資の定義を明確にする必要がある 	<ul style="list-style-type: none"> • 同左
8	所得階層	<ul style="list-style-type: none"> • Target Group の定義を明確にする必要がある 	<ul style="list-style-type: none"> • 法的な規制等により、人口統計データ (社会・経済的地位、収入、人種) の収集が困難 • 投資先の事業の性質や対象国・地域次第では、所得階層を特定することが困難 (例: 病院の患者の所得者層) であり、仮定を置く必要がある (例: 低コストの診療所等の利用者は低所得者である)
9	ステークホルダー	<ul style="list-style-type: none"> • Impacted Stakeholders は特定が容易ではないため、任意回答としてほしい 	N/A
10	投資エリア (国別・地域別)	N/A	<ul style="list-style-type: none"> • 特定の国・地域に事業を限定しておらず、グローバルにサービスを提供している企業も多いため、地域や対象者ごとに投資データを分解することに課題がある (1 つの国に拠点を置く企業に投資する場合でも、製品やサービスは発展途上国と先進国を含むグローバルに提供されている)

2.3.2 Triple I Reporting Guidelines and Framework の改定ポイントおよび積み残し課題に対する方策

パートナー機関からのフィードバックを反映し、Triple I Reporting Guidelines and Framework にいくつかの重要な改善が加えられた。これらの変更は、報告プロセスをより効率的かつ柔軟なものとし、透明性を向上させることを目的としている。

課題に対する主な方策としては、①Web フォームの導入、②地域選択の多様化、③投資対象国の追加、④投資家情報の追加、⑤KPI 分析の強化、⑥案件名称の追加、⑦裨益者区分の追加、⑧新たな設問の追加であり、詳細は以下の通りである。

これらの改善により、Triple I Reporting Guidelines and Framework は、報告プロセスをより効率的かつ効果的にすることが可能になった。

表 3 Reporting Guidelines and Framework (RF) の改定ポイント

項目	内容
① Web フォームの導入	新たに Web フォームが開発され、オンラインで報告が行えるようになった。これにより、パートナー機関からの報告の利便性が改善したことに加え、データ集計・分析が迅速に行えるようになった。
② 地域選択の多様化	報告時に複数の地域を選択できるようになり、地域に関連するデータをより柔軟に報告・収集できるようになった。この変更により、異なる地域で行われた投資・プロジェクトに関する情報の精度が向上した。
③ 投資対象国の追加	新たに投資対象国を報告に含めることができるようになり、国別に投資活動を把握することが可能となった。この変更は、各国における投資の状況を明確にし、透明性を高めることが期待される。
④ 投資家情報の追加	投資家に関する情報を追加し、投資活動の背景や支援者を明確にすることが可能となった。これにより、投資家とプロジェクト間の関係がより透明となる。さらに、RF 上でのパートナー区分を PRI (国連責任投資原則) 等の事例を参考に新設し、関係者の分類を明確化した。
⑤ KPI 分析の強化	パートナーから提供された KPI に基づいて分析を行い、投資・プロジェクトのインパクトを測定する新しい枠組みが導入された。この変更により、インパクトの定量的な評価が可能となり、より正確な成果の把握が期待される。
⑥ 案件名称の追加	報告時に案件名称を追加できるようになり、プロジェクトごとの識別が容易になった。
⑦ 裨益者区分の追加	新たに裨益者 (プロジェクトの受益者) の区分を設け、報告の精度を向上させた。該当するカテゴリーがない場合は、「その他」を選択できるようにし、柔軟な記載が可能となった。
⑧ 新たな設問の追加	新たな設問を追加し、報告内容の充実を図った。これらの変更により、Triple I Reporting Guidelines and Framework は、報告プロセスをより効率的かつ効果的にするための重要なステップとなった。

2.4 グローバルヘルス分野でのインパクトの測定・マネジメントの実態やインパクト投資の傾向に係る調査・分析

本章ではグローバルヘルス分野でのインパクトの測定・マネジメント (IMM) の実態やインパクト投

資の傾向に係る調査・分析を行い、結果をまとめた。

2.4.1 インパクト投資・IMMの傾向に係る調査・分析結果

インパクト投資関連の戦略、リスク管理、投資プロセス、IMMのアプローチなどに関して、パートナー機関 11 社およびパートナー以外の機関 5 社（海外現地調査含む）へのヒアリング調査を実施した。2.4.2 に記載の通り、調査結果からインパクト投資および IMM の最新動向ならびに今後の課題が明らかになった。

2.4.2 インパクト投資・IMMに関するパートナー機関等の意見収集およびヒアリング結果
上記ヒアリングの結果、以下の点が確認された。

- ・ 投資先企業の発展段階に適した指標を選択できる独自の評価フレームワークを投資先企業に提供するきめ細かい取り組みが一部に見られた。
- ・ 想定されるインパクトは大きいですが、投資の複雑さ（またはリスクの高さ）により、資金が十分に動員されていないヘルスケア分野が多い。
- ・ ヘルスケアへの投資においては、官民連携が不可欠であるが、技術的な詳細が重要であり、かつ現地資本の不足が成長の大きな障害になる可能性がある。
- ・ インパクト投資の成功事例が、広く知られていない傾向にある。

パートナー機関へのヒアリング調査結果の詳細については、下表のとおりである。

表 4 インパクト投資に係る調査・分析：ヒアリング結果（インパクト投資関連）

項目	内容
資産クラスの傾向と投資アプローチ	<ul style="list-style-type: none"> ・ インパクトをアピールして資金調達する場合、エクイティ（株式）の文脈で語られることが多い。インフラ案件は社会的インパクトを創出しやすいアセットであり、デット（プロジェクトファイナンス）がなじみやすい ・ 多様な資産クラスにおいてインパクト投資を行っている機関投資家と、グローバルヘルス分野に特化してスタートアップ投資を行っている機関投資家が存在する ・ インパクト投資においては、株式投資のみならず、債券投資も重要である ・ 未発達なマーケットでの基盤作りに注力し、3年から5年という期間で投資を行うなど、投資対象の規模やアプローチに違いがある
投資戦略とリスク管理	<ul style="list-style-type: none"> ・ インパクト投資の主流化：すべての投資でインパクトを考慮し、インパクト投資の主流化を目指している ・ 他のインパクト投資家やヘルスケア専門家との連携を深め、投資戦略を洗練している ・ リスク管理において、経済的リターンとインパクトのバランスを取り、プロジェクトの財務評価とインパクトの可能性をモニタリングしている
投資プロセスと体制構築	<ul style="list-style-type: none"> ・ インパクトスコアリングシステムを適用し、デューデリジェンスの前段階において、投資先候補となるスタートアップ企業のヘルスケア課題への対処能力や新興市場でのソリューションの拡張性とアクセス性を評価している

	<ul style="list-style-type: none"> 投資プロセスには、事業性と潜在的なインパクトを評価するためのデューデリジェンスが含まれ、フロント部署とミドル部署が連携して企業価値とインパクトの有無を確認することに重点が置かれている
インパクト投資の柔軟性と適応	<ul style="list-style-type: none"> インパクト投資において柔軟でカスタマイズされたアプローチを採用し、地域や業種ごとに異なる目標や指標を設定している それぞれのニーズに応じたツールやフレームワークを開発し、特定の市場やプロジェクトに適応させる取り組みを行っている 成功した投資モデルを地域の状況に合わせてカスタマイズし、有利な出口戦略を計画している ビジネスモデルと事業の発展段階に適した指標を選択できるような独自の評価フレームワークを投資先企業に対して提供し、初期段階のスタートアップから成熟した企業まで幅広く対応可能としている インパクト測定に関する課題たいおう：投資を国別・地域別にトラックすることの困難さを認識し、グローバルに展開する企業への投資においては、特定の人口に対する正確なインパクトを決定することが課題となっている
インパクトと財務リターンの両立	<ul style="list-style-type: none"> 機関投資家は、インパクト投資において財務リターンと社会的インパクトの両立を目指している傾向が見られた。企業の重要なパートナーとなり、企業がインパクトの創出に注力し続けることを目標に投資しており、直接影響を与えない分野への投資は避けている 想定されるインパクトは大きいものの、投資の複雑さ（またはリスクの高さ）により、資金が十分に動員されていないヘルスケア分野が多い ヘルスケア分野におけるインパクト投資の目的として、（医療への）アクセスの改善とコスト削減の二点と定める機関投資家が見られた
官民パートナーシップとリスク管理	<ul style="list-style-type: none"> 多くの機関投資家は、官民パートナーシップを通じたインパクト投資を推進している インパクトボンドなどの持続可能な投資メカニズムにおいて、長期的な成功を保証するために政府の関与が不可欠である 官民パートナーシップの技術的詳細（入札など）が重要である ヘルスケアへの投資は公共政策と連動することが多いため、投資先へのリスク管理において、投資家と政府機関の報告要件のバランスをとる必要がある 現地資本の不足が成長の大きな障害となる可能性がある
情報開示およびコミュニケーション	<ul style="list-style-type: none"> 投資家の機能と報告メカニズムを明確にすることで、インパクト投資の定義を確立し、二重計上を防いでいる 多くの成功事例があるが、広く知られていない。過去に成功した事例の情報発信は限定的である

続いて、IMM に関しては、以下の点が確認された。

- 調査を通じて、投資先企業の成長段階や新たな健康テーマへの対応に応じたインパクト評価の進化、柔軟な測定手法、多様なアプローチの活用が明らかになった。
- ポートフォリオ企業の成長段階や新たな健康テーマの取り組みに合わせて、インパクト評価のアプローチを変えたり、新分野のカテゴリーを追加したりといった柔軟な対応事例が一部に見られた。
- インパクト評価手法としてロジックモデルを挙げている先はあまりなく、インパクト評価手法が

標準化されていない傾向が見られた。

- ・ インパクト投資においては、データ収集が共通の課題として認識されており、ヒアリング先においては、定量情報のみならず、定性情報で補完しているケースも見られた。
- ・ インパクトウォッシュが課題であるため、一貫したインパクト測定の基準を確立し、信頼性を向上させることが重要との意見も聞かれた。

パートナー機関への IMM 関連についてのヒアリング調査結果の詳細については、下表のとおりである。

表 5 インパクト投資に係る調査・分析：ヒアリング結果（IMM 関連）

項目	内容
インパクト評価・測定に対する多様なアプローチ	<ul style="list-style-type: none"> ・ インパクト評価手法としてロジックモデルを挙げる投資家は多くなく、標準化されていない ・ 各社が独自にカスタマイズした評価手法を用いている ・ IFC の AIMM に似たフレームワークを用いて開発成果（アウトカム）を定量化し、変化の理論（ToC）に基づくカスタマイズされた指標を使用している ・ ロジックモデルや KPI を活用し、企業自身にインパクトを創出する意図があるかを確認し、年に一度、財務状況のレビュー時に現状をモニタリングしている ・ 機関投資家の中には、主に定量的手法を活用するケースもあれば、定性的手法や混合型手法を活用するケースもある ・ 多くの場合、測定はアウトカムを中心に行われるが、実際のアウトカム測定には限界がある ・ 金融機関の介入がない場合の予測と比較して、実際の症例や死亡数の減少を評価する手法を採用している ・ ポートフォリオ企業が成長するにつれて、インパクト評価のアプローチを進化させ、収集するインパクトデータの種類と深さを変化させる ・ 影響を受けた人々の数、エンゲージメント指標、臨床成果、コスト削減、患者の報告に係る成果など、多様なインパクト測定基準を設定し、それぞれの投資先企業のビジネスモデルと開発段階に合わせて適用する ・ IRIS+は選択範囲が広いことから、インパクト測定の包括的なツールというよりは、情報を引き出すためのライブラリとして使用している
投資戦略、インパクトのモニタリングおよびリスク管理	<ul style="list-style-type: none"> ・ WHO の基準に基づきつつ、新たな健康テーマにも適応を進めている ・ 医療バリューチェーンに関する明確なカテゴリ設定と新分野の追加により、ヘルスケアセクターへのインパクトの正確な表現が可能になっている ・ 年次または四半期ごとにインパクト測定・報告を行っている ・ 多くの機関投資家が、用途に合わせて自社でカスタマイズされた報告モデル、指標を使用している ・ インパクト投資特有のモニタリング、管理プロセスはなく、通常の投資と同様のアプローチとしている
情報管理	<ul style="list-style-type: none"> ・ 情報管理のクラウド化が進み、データへのアクセスや操作が容易になり、データ変更の追跡や不整合なデータの特定が簡単になっている ・ 多くの投資家が、クラウドベースのソリューションを採用し、リアルタイムの更新と透明性を追求している

	<ul style="list-style-type: none"> データの信頼性を確保するために国内外で、監査機能を通じて結果を公開し、透明性へのコミットメントを示している 投資家は、データの透明性を高め、信頼性とアクセシビリティを向上させようとしている 一部の機関投資家では、インパクト評価において、データ分析プラットフォームやAIを活用する傾向も見られた
インパクトウォッシュ防止の重要性	<ul style="list-style-type: none"> インパクトウォッシュのリスクを防ぐため、データの透明性と標準化の重要性を求める声が聞かれた 一貫したインパクト測定の基準を確立し、信頼性を向上させることでインパクトウォッシュの懸念に対処できるとの意見も聞かれた インパクトウォッシュ対応や異なるインパクト投資間の比較可能性と理解を深める観点から標準化が必要との声が聞かれた

2.4.3 投資目標に係る検討

Triple I における投資目標の設定方法として、以下の3通りを考案した。

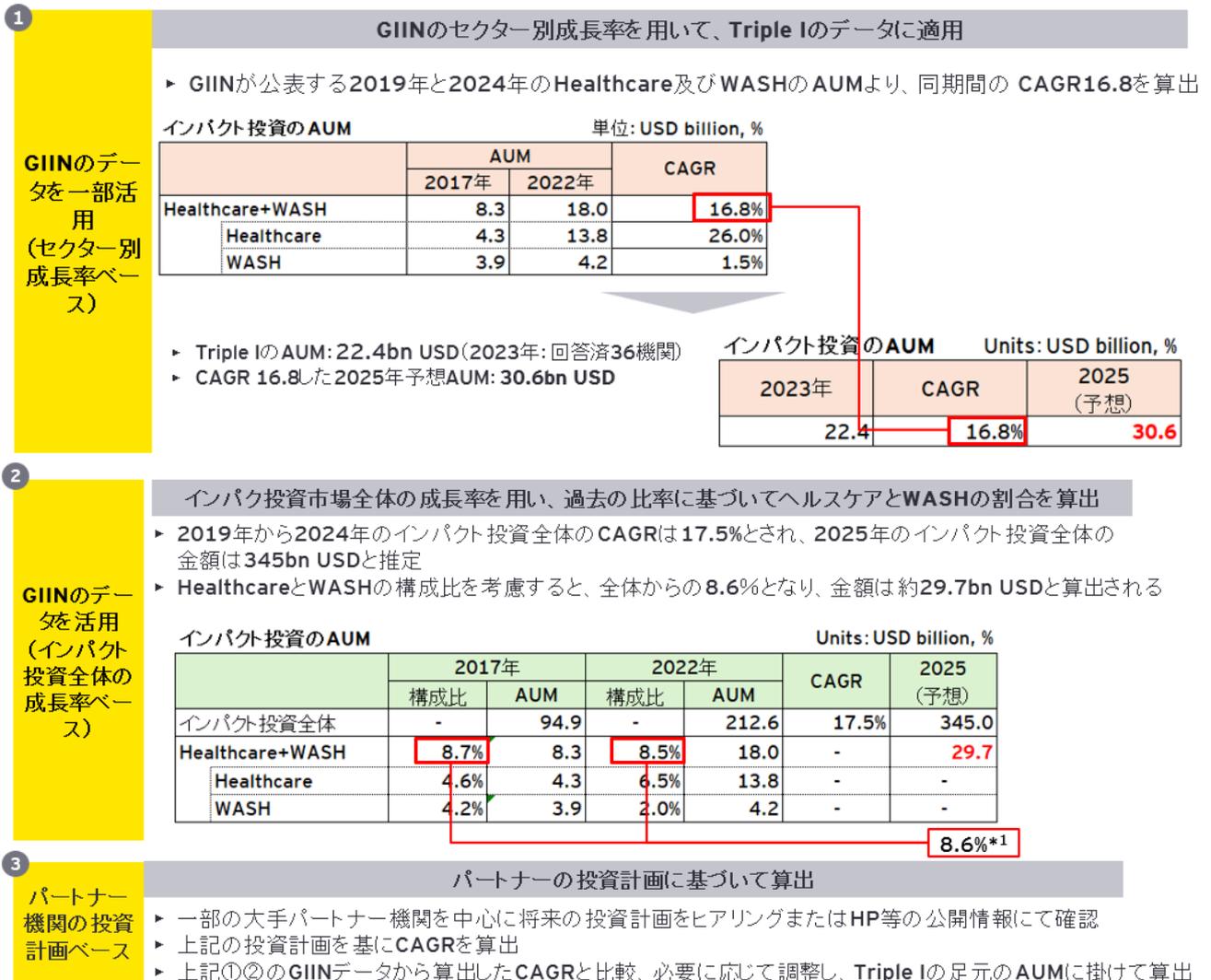
下図の①は、GIIN が公表した 2017 年から 2022 年のヘルスケアおよび WASH (Water, Sanitation and Hygiene) の各分野の AUM (運用資産残高) データを基に、同期間の CAGR (年平均成長率) 16.8% を算出したものである。この CAGR を適用し、Triple I の AUM (2023 年時点: 224 億米ドル (回答済 36 機関)) をベースに計算すると、2025 年には AUM は 306 億米ドルになると推計される。

②については、2017 年から 2022 年のインパクト投資市場全体の CAGR 17.5% を算出した。この成長率を適用すると、2025 年のインパクト投資全体の AUM は 3,450 億米ドルになると計算される。さらに、ヘルスケアと WASH それぞれの分野の構成比 (8.6%) を一定と仮定することで、2025 年時点でこれらの分野における AUM は約 297 億米ドルになると推計される。

③については、2X Challenge の目標設定の事例を参考にしたものであり、一部の大手パートナー機関を中心にヒアリングまたは HP 等の公開情報を集計して CAGR を算出し、①または②で算出した CAGR 参考に必要に応じて調整を行う手法である。2X Challenge は 2018 年の G7 サミットで発足した主要イニシアティブであり、開発途上国の女性の経済的エンパワーメントを支援する投資の増加を目指している。同組織が 2024 年に 200 億ドルの投資目標を発表したことから、目標設定手法の参考事例として関係者へのインタビューを実施し、③を考案した。

パートナー機関の投資計画がある程度把握できれば、③が最も有力な方法になると考えられる。

図 13 投資目標の設定案



3章 グローバルヘルス分野でのインパクトの測定・マネジメント の実態やインパクト投資の傾向に係る調査・分析および投資目標 に係る検討

【要約】

本章では、グローバルヘルス分野でのインパクトの測定・マネジメントの実態やインパクト投資の傾向に係る調査・分析、およびそれらを踏まえて作成したIMM Working Groupの成果物であるPractitioner Guide案の概要について紹介している。

IMM Working Groupは、グローバルヘルス分野におけるIMMの実態把握と実践知の体系化を目的として設立され、2024年9月から2025年3月にかけて計6回の会合を開催した。本グループは、Triple Iパートナー機関の実務経験と分析データを基に、IMM Working Group関連の資料や実務者ガイド(Practitioner Guide)を作成した。

作成されたPractitioner Guide案は、グローバルヘルス分野で有意義なインパクトを創出しようとする投資家のためのリソースとして設計され、既存のIMMフレームワークをグローバルヘルスの文脈に適用したものである。本ガイド案は投資ライフサイクル、製品開発・サービス提供ライフサイクル、指標選択の3つの主要セクションから構成されており、すべての組織が取り組むべき優先的なIMMトピックとして、インパクト投資テーゼの開発、法的文書へのインパクト要件の組み込み、適切な指標の特定を挙げている。

Practitioner Guide案では、投資ライフサイクル全体にインパクト目標を組み込む重要性や、製品開発からサービス提供に至るまでの包括的な視点、アウトプット・アウトカム・インパクト指標の役割などが強調されている。また、「Triple I Partner Spotlight」として本報告書の2.2.3節に記述されている好事例が紹介され、ガイドの推奨事項を実践するための具体的な例として機能している。さらに、ロジックモデルやシステムマップ作成のための実践的ツールも付録として含まれており、投資家が効果的にインパクトを計画・測定・管理するための支援を提供している。

3.1 IMM Working Group の活動・実績

3.1.1 IMM Working Group の現状

IMM Working Group は、グローバルヘルス分野における IMM の実態把握と実践知の体系化を目的として設立された。本グループは、グローバルヘルス領域特有の IMM 課題に対応するため、Triple I パートナー機関の実務経験と Triple I 分析データを基盤とした IMM Working Group 関連の資料や、本グループの成果物の 1 つとなる実務者ガイド(Practitioner Guide)の作成に取り組んでいる。

Practitioner Guide の策定にあたっては、「インパクト戦略」「測定とマネジメント」「インパクトコミュニケーション」の 3 つの柱を軸に検討を行ってきた。第一の柱「インパクト戦略」では、投資・プロジェクトを通じて達成すべき意図的なインパクト目標とその実現方法の特定を検討した。第二の柱「測定とマネジメント」では、特定の投資・プロジェクトが長期的な健康目標達成にどのように貢献するか、またインパクト実現の阻害リスクをどう軽減するかを検討した。第三の柱「インパクトコミュニケーション」では、主要なアウトプット、アウトカム、インパクトに関する現状と見通しをグローバルヘルス・バリューチェーン全体のステークホルダーにどう伝えるかを検討した。

IMM Working Group 参画メンバーのパートナー機関との議論に基づき、本事業の調査結果と既存フレームワークを統合して、機関投資家、フィランソロピー、政府機関、NGO 等に向けた実践基盤の提供を目指して、後述する Practitioner Guide 案を作成した。

IMM Working Group は 2024 年 9 月に初会合を開催し、2025 年 3 月までに計 6 回開催した。また、2025 年 2 月 21 日に開催された Triple I Roundtable では Practitioner Guide のアウトラインが Triple I パートナー全体に紹介され、3 月 25 日の Triple I Practitioner Guide Workshop では、Practitioner Guide 案が Triple I パートナー全体に紹介され、詳細な解説と同ガイドの具体的な活用事例の説明が行われた。会合では参加者が現在直面している IMM 課題について活発な議論が交わされたほか、同ガイドに関する知見やフィードバックが共有された。

3.2 Practitioner Guide 案の作成・概要

Practitioner Guide 案は、グローバルヘルス分野で有意義なインパクトを創出しようとする投資家・被投資家向けのリソースとして設計されている。本ガイドは先進国と途上国の双方を対象とし、初心者から上級者までの幅広い投資家に活用されることを想定している。新たなインパクト投資フレームワークの開発を目指すものではなく、インパクト投資の運用原則、インパクトの 5 つの基本要素、IRIS+メトリクスデータベースなど、既存の IMM フレームワークをグローバルヘルスの文脈に適用することを試みている。

本ガイドは 3 つの主要セクションで構成されている。第一に投資ライフサイクル全体へのインパクト思考の統合に関する実践的推奨事項、第二にグローバルヘルス・インパクト投資家が一般的に活動する産業に関連する製品開発・サービス提供ライフサイクル全体でのインパクトリスク管理の考慮事項、第三に IMM パフォーマンスを定量的に説明するための指標に関するガイダンスである。

健康課題、地理的範囲、産業など投資家が活動する分野の広範さを考慮し、本ガイドはインストラクションではなくガイダンスを提供し、グローバルヘルス・インパクト投資家が資金提供者、投資先企業、その他の関連ステークホルダーに対して考慮・伝達すべき質問の概要に焦点を当てている。本ガイドでは、すべての組織が取り組むべき優先的な IMM トピックとして、以下の 3 つを特定している。

- ① 投資が影響を与える健康トピック、そのメカニズム、予想されるインパクトの規模を定義する変化の理論（ToC: Theory of Change）と、インパクト目標と財務的価値創造との明確な関係を含むインパクト投資テーゼの開発
- ② 投資契約へのインパクト条項の明記
- ③ 投資の意図された目的を説明するアウトプット、アウトカム、インパクト指標の特定

本ガイドは、投資家が短期間で推奨事項のすべてを実施することは現実的でない可能性があることを認識しており、各組織の財務面や、オペレーション能力に応じて段階的に実施することを提案している。特に大規模な組織は、より野心的な IMM 戦略を構築し、小規模な組織が参考にできる明確な実践例を作ることが奨励されている。これらの原則は投資家向のみならず、プロジェクトベースの投資を行う企業、資本を提供する金融機関、およびグローバルヘルス・バリューチェーンにおけるその他の組織においても利用可能なものである。

3.3 IMM Working Group の提言

IMM Working Group が策定した Practitioner Guide 案では、グローバルヘルス分野においてインパクト投資を効果的に実施するための実践的枠組みが提示されている。本ガイドは、投資ライフサイクル全体へのインパクト思考の統合、製品開発・サービス提供ライフサイクルの管理、および指標選択に関するガイダンスという3つの主要セクションで構成されている。

1点目の投資ライフサイクル全体へのインパクト思考の統合に関しては、「インパクト戦略」「測定とマネジメント」「インパクトコミュニケーション」の3つの柱が中心テーマとして提唱されている。投資実務においては、投資戦略の策定から出口戦略に至るまでの全プロセスにインパクト目標を組み込むことが重要とされ、具体的な考慮事項としては、投資契約へのインパクト条項の明記やインパクト達成と連動した資金提供メカニズムの構築が挙げられている。

2点目の製品開発・サービス提供ライフサイクルの管理については、研究開発から患者へのサービス提供に至るまでの包括的な視点が提唱され、バリューチェーン全体を考慮することの重要性が強調されている。

3点目の指標選択に関するガイダンスでは、アウトプット、アウトカム、インパクト指標の役割が強調され、主な考慮事項として、適切な指標セットと ToC の定義、既存フレームワークとの整合性、早期のデータ収集戦略開発が挙げられている。また、ガイド付録には各投資案件における ToC を構築するための基盤となるロジックモデルやシステムマップ作成のための実践的ツールが含まれている。ロジックモデルは、インパクトの5つの基本要素（インプット、アクティビティ、アウトプット、アウトカム、インパクト）で構成され、システムマップはプロジェクトの環境、ステークホルダー、およびその相互作用を理解するのに役立つことから、プロジェクトに最も関連性の高い指標の作成を可能にしている。また、ガイドには本報告書の2.1.6節で説明されている Triple I データの指標分析に基づく指標例も収録されている。さらに、「Triple I Partner Spotlight」においては、本報告書の2.2.3節に記述されている好事例がパートナー機関による実践事例として紹介されており、ガイドの推奨事項を実践する具体例として役立っている。

政策面では、低中所得国における医療アクセスと財務的持続可能性を両立させる段階的価格モデルの導入や、規制環境の整備に向けた地方政府との連携強化が推奨されている。特に、医療システムが脆弱で健康教育が不十分な地域や、革新的な医療技術へのアクセスが限られた地域における健康格差の解消

に焦点を当てた投資の促進が強調されている。

本 Practitioner Guide 案は 2025 年春ごろに公開が予定されており、事務局が必要に応じてアップデートしていくこととなる。

4章 まとめ

グローバルヘルスにおける課題が深刻化するなか、その解決の一助となるインパクト投資を促進する国際的イニシアティブである Triple I が果たす役割はますます重要となっている。こうした状況のもと、本事業では、Triple I 事務局を務める日本国政府の支援を目的に、以下の3つの活動を軸に実施された。

- ・ 国内外におけるグローバルヘルス分野のインパクト投資の実態や好事例の情報収集・分析・情報発信
- ・ Triple I の活動を通じたステークホルダーにおけるインパクト投資の機運の醸成
- ・ Triple I のレポートフレームワークの改善・強化、および Practitioner Guide の策定を通じた、より効果的かつ透明性の高い報告プロセスの実現促進

グローバルヘルス領域におけるインパクト投資の実態を把握するため、パートナー機関からデータを収集・分析した。また、IMM の実態を明らかにするために、ヒアリングを実施し、パートナー機関による投資の金額やテーマ、頻繁に使用されている IMM のフレームワークなどを特定した。さらに、グローバルヘルス分野で有意義なインパクトを創出しようとする投資家向けのリソースとして、Practitioner Guide を策定した。本ガイドは、新たなインパクト投資フレームワークを開発するものではなく、既存の IMM フレームワークをグローバルヘルスの文脈に適用することを目的としている。このガイドは、今後の Triple I の投資目標の設定や、好事例の選定・発信の基盤となることが期待される。

一方で、パートナー機関による IMM の実践状況を深掘りする中で、いくつかの課題も浮き彫りになった。具体的には、IMM のフレームワークや指標の基準化が十分に進んでいないこと、そして IMM を適切に実践できる専門人材の確保が課題として挙げられた。

IMM Working Group は、こうした課題に対応するため、Practitioner Guide 案を 2024 年 7 月から 2025 年 3 月にかけての活動で作成した。このガイドは投資ライフサイクル全体へのインパクト思考の統合、製品開発・サービス提供ライフサイクルの管理、および指標選択に関する実践的指針を提供している。特に重要な点として、投資契約へのインパクト条項の明記、バリューチェーン全体を考慮した包括的視点の採用、適切な指標セットと変化の理論 (ToC) の構築が強調されている。また、本報告書の好事例が「Triple I Partner Spotlight」として紹介され、理論を実践に移す具体例として参照価値を高めている。

これらの取り組みにより、グローバルヘルス分野におけるインパクト投資の透明性と効果性を高める基盤が整備され、今後の活動拡大に向けた重要な一歩となった。特に、投資家や事業者が実際に活用できる実践的ツールの提供は、理論と実践のギャップを埋め、より多くの資金をグローバルヘルス課題の解決に向けて動員する可能性を高めるものである。

以上

5章 Appendix

表 6 投資・プロジェクトのインパクトメトリクス

アウトプット指標

医療へのアクセス	施設拡充	人材育成	地理的浸透	ジェンダー トラッキング
<ul style="list-style-type: none"> 患者数 診察数・検査数 患者区分（低所得、脆弱層など） 保険カバレッジ・手頃な価格の指標 	<ul style="list-style-type: none"> 新センター区分（農村/都市） ベッド数増加・機器数増加 品質認証状況 	<ul style="list-style-type: none"> 研修を受けた医療従事者区分（施設ベース/コミュニティ） 医療従事者の性別比率 	<ul style="list-style-type: none"> 地方都市（2級/3級）のカバレッジ 地区レベルのカバレッジ 	<ul style="list-style-type: none"> 女性患者数 支援を受けた女性所有ビジネス 女性労働力指標

アウトカム指標

医療提供の改善	疾病管理の有効性	運営の持続可能性	政策実施	ジェンダー公平性
<ul style="list-style-type: none"> ケア品質の基準 医療アクセスの公平性 	<ul style="list-style-type: none"> 治療遵守率 費用対効果の指標 予防プログラムの成功率 	<ul style="list-style-type: none"> 患者一人当たりコスト 資源活用効率 スタッフ定着率 	<ul style="list-style-type: none"> 医療政策開発・職場方針改善 規制遵守 	<ul style="list-style-type: none"> 女性向け医療サービス拡大

インパクト指標

健康インパクト測定	医療システム変革	経済的インパクト
<ul style="list-style-type: none"> 回避された DALYs（障害調整生命年） LMICs における救命/生活改善 疾病進行の抑制 	<ul style="list-style-type: none"> 自己負担費用削減 医療アクセスの向上 品質基準の向上 	<ul style="list-style-type: none"> 医療費削減による経済的節約 システムレベルでの医療費削減 健康改善による生産性向上